

第1学年

生活科

単元名

みんなであそぼう
はる なつ あき ふゆ

【手立て】

①対象と繰り返し関わるができる学習環境

○児童の意識を想定した単元計画

- ・児童の思いや願いを大切にしながら2回遊ぶことで友達と関わる機会を増やし、遊びを工夫できるようにする。

②学び合い、気づきを深める学習活動

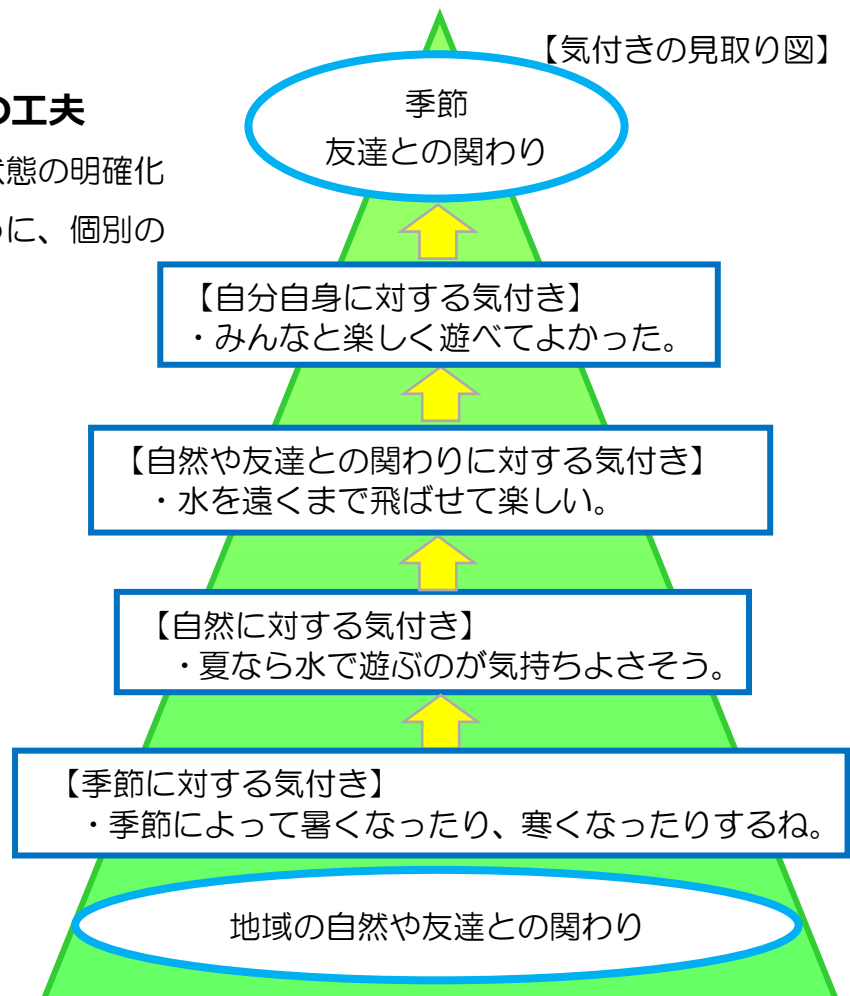
○発問、言葉がけの工夫

- ・気付いたことを共感的にとらえ、価値付けや意味付けすることで気づきの質を高める。
- ・児童の気づきに「なぜ、どうして」と切り返すことで、質の高い気づきを見つけさせる。

③学ぶ意欲を高める評価の工夫

○気づきの質的な高まりの状態の明確化

- ・気づきの質が高まるように、個別の支援に生かしていく。



【研究協議】

<学習環境>

- ・活動のねらい、実態、環境に合わせた活動の場の準備が必要。
- ・友達と関わらざるを得ないような材料や道具の用意をする。

<言葉がけの工夫>

- ・遊びが広がるような言葉がけが必要。

【指導講評】 埼玉大学教育学部附属小学校 若村 健一先生

- ①幼児教育からの生活科、理科・社会につながる生活科
→幼稚園、保育園での活動を振り返ったうえで生活科を考える。
- ②振り返りの時間も十分に確保する。
→教師が子ども達の気付きに対して、意味付けしたり、価値付けしたりしていくことで気づきの質を高めることになる。
- ③体験→表現→体験を繰り返す学習過程の工夫が大切。
- ④生活科では、学校だけではなく、家に帰り、自分の生活の中でも活動できることが大切。



成果

- ・振り返りを十分に行うことで、次の活動への意欲を持たせることができた。
- ・教師が児童の言葉を補いながら価値付けを行うことで、児童一人ひとりの気づきの質を高めることにつながった。

課題

- ・児童の実態に合わせた材料の精選や活動のねらいに合わせた学習環境の工夫をする。
- ・児童から引き出した幼稚園、保育園での経験を授業に生かしていく。